

平成29年度学生と学長との懇談会  
役員からの質問事項に対する学生からの回答

1 徳島大学は何が有名と思いますか。また、徳島大学には何が欠けていると思いますか。	
総合科学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的に、電気電子工学科が有名</li> <li>・部活動に全く力を入れていない大学としても有名</li> </ul>
総合科学部	<p>有名なもの：LED 欠けているもの：LED使用のものが少ない。K棟の時計とその前の道にあるライトしか知らない。</p>
医学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青色発光ダイオード ← 有名</li> <li>・施設の利便性 ← 欠けている</li> </ul>
歯学部	青色LED開発者の出身校です。
薬学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【有名な点】（薬学部生としての立場でいうと）医歯薬学部、そして大学病院が同一キャンパス内に存在するため、医療系総合力の高さが有名なのではないか。</li> <li>・【欠けている点】だが、実際には他学部との交流は想像以上に浅く、学生の頃から「チーム医療」等をはじめとした総合的な交流学習が適度に行われているようには感じられなかった。</li> </ul>
工学部	徳島大学は四国で大きな総合大学でありほとんどの学部がそろっており学びたいことが学べる大学であることで有名であると思います。しかし在校生が多く試験前になると図書館の自習スペースが不足していたり、共通講義棟の自習スペースが不足している状況であるので在校生の人数に見合う大学設備がかけられていると思います。
理工学部	LED ノーベル賞受賞の中村氏
生物資源産業学部	<p>有名だと思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部が充実している</li> <li>・ノーベル物理学賞を受賞された中村修二さんの出身校</li> </ul> <p>欠けていると思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育</li> </ul>
総合科学教育部	<p>○有名だと思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流の場やイベントが多い。ドローンやLED、クラウドファンディング</li> </ul> <p>○欠けていると思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理系だけでなく文系と共同開発・研究したものなどが学生や受験生たちにあまり認知されていないと思われる点。</li> <li>・他の大学・徳島以外の地域との交流。徳島大学の独自性が徳島にだけではないと思われる。</li> </ul>
医科学教育部	徳島大学というと青色LEDなど半導体関連の研究がまず思い浮かびます。立地上のデメリットを考慮してもなお、県外（遠方の地域）から進学したいと思えるような魅力に欠けていると思います。
栄養生命科学教育部	徳島大学はノーベル物理学賞を受賞された中村修二氏の母校として有名だと思います。徳島大学に何か欠けていると感じたことは特にありません。
保健科学教育部	中村修二先生のノーベル物理学賞受賞 県内志向が強く、世界に挑戦する機会が少ない
口腔科学教育部	医療系の学部が充実していること。
薬科学教育部	徳島大学の有名な点：わかりません 徳島大学に欠けている点：活気
先端技術科学教育部	<p>(有名なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中村教授のノーベル賞受賞</li> <li>・LED</li> </ul> <p>(欠けているもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構内にコンビニエンスストアがあれば便利</li> <li>・エアコンの規制や、研究を行っていく上で資金不足を感じる。</li> </ul>

2 自分の所属する学部・教育部がどうなしてほしいですか。また、どうなったら卒業（修了）生として誇りを持てますか。	
総合科学部	・人が育つ大学として評価されるようになったら
総合科学部	地域貢献などを通して新聞の記事に載る。 卒業論文のレベルの統一化。
医学部	正しく医学教育を施し、誠実な医師を輩出できる学部となしてほしい。
歯学部	自学自習の精神が充実しておりますが、今後の発展には特に心配はしておりません。
薬学部	・医薬品における基礎研究から臨床研究、そして上市への橋渡しとして、世間一般の多くの方々を知ってもらえるような学部。そのための一例として、将来的には製薬企業との提携によって実際に医薬品開発の一端を担ってほしい。 ・（旧帝大に匹敵するような）実験施設、実績、能力などがある。「地方大学だから」というようなネームバリューに負けない。
工学部	自分の所属する学部が講義よりも研究に力を入れる学部になってほしい。講義は研究をする上で基本的な知識を身に付ける場であるが講義に力を入れすぎていて研究がおろそかになっているように感じます。今後徳島大学からノーベル賞を受賞するような人が出れば卒業生として誇りを持てます。また社会に貢献して社会の役に立つようなことができるような大学であれば卒業生として誇りを持てます。
理工学部	高い就職率 南海トラフに耐える建物を社会基盤デザインコースの卒業生が設計する
生物資源産業学部	新設2年目の学部のためか、授業面や施設面で余裕のなさが垣間見られ、教員の間でも試行錯誤の状態が続いているように感じる。学生が実習やカリキュラムに対して抱く不安や不満が解消され、今までよりも満足できる学部になってほしい。 生物資源産業学部はまだまだ認知度が低いと感じるので、多くの人に知ってもらえるような学部になれば誇りを持てる。
総合科学教育部	・地域と連携した活動を、授業で学んだことを活かしながら取り組んでいける教育部になってほしい。 ・サークルや部活動だけでなく、授業や研究内で何かに取り組めたと説明できるようになれば、誇りを持てるのではないかなと思う。
医科学教育部	トップジャーナルに掲載されるようなレベルの高い研究が多くの研究室から続出するようになってほしいです。
栄養生命科学教育部	臨床現場の第一線で活躍する管理栄養士を最も多く輩出する学部・教育部になって欲しいです。管理栄養士養成校と聞いて一番初めに思いつく学校が徳島大学の医科栄養学科になれば修了生として誇りを持てます。
保健科学教育部	志望者が増え、人気が上がってほしい
口腔科学教育部	多くの研究や有望な人材が輩出されるような学部になってほしい。地域に特化した役割も担うような学部にもなってほしい。
薬科学教育部	・薬学部・薬科学教育部は医療従事者の養成と研究教育のどちらにおいても他の医療系分野（医学・歯学など）との交流・連携は必要だと思うので、薬学の中だけにとどまらずもっと他分野と関わるようになってほしい。
先端技術科学教育部	・大学側からも卒業後のビジョンをしっかりと提示してほしい。 ・大学院に進学したメリットが大きい教育部になってほしい。 ・それぞれのコースにそれぞれのはっきりした強みがほしい。 ・今後もノーベル賞受賞者を輩出できるような最先端でハイレベルな研究を行っていけるような教育部であってほしい。

3 あなたが考える理想の大学（教育、研究、キャンパスライフなど）を教えてください。  
そのためには、徳島大学は何が必要ですか。

総合科学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教える側も学ぶ側も真剣な大学</li> <li>↓</li> <li>・教員の評価制度を教育重視に変えること</li> <li>・会議を最大限減らし、教員が研究と教育に没頭できる環境に変えること</li> <li>・大学側が学生個々人と人間関係を結ぶこと</li> <li>・“一般教養”を見直すこと</li> </ul>
総合科学部	<p>図書館24時間開いてほしい。 図書館の書庫をもっと使いやすくしてほしい。 食堂のメニューに変化がほしい。 「らぱっと」や学祭を盛り上げてほしい。</p>
医学部	<p>一律に教育が施され、学びたい者にはそれ以上の手を差し伸べてもらえる大学 特定の科では、全く学生のことを鑑みない授業があり、（ほんの一部です）学生からのフィードバックをもっとしんしに受けとめてほしい。（ほんの一部です）</p>
歯学部	<p>教員との意見疎通が円滑な環境が一つの理想と考えますが、現状その理想に近い環境かと思えます。</p>
工学部	<p>理想の大学とは、教育面において今後社会に出て就職してから役に立つような講義を行っていただけるような大学です。現状ではただ単位を取るためだけの講義が多いような気がします。そのためには講義において1回でもよいので実際に企業の方に来ていただき実践的な話を聞くことができる講義を行う機会が必要だと思います。 また研究面においては幅広いかつ専門的な研究が行えるのが理想の大学です。そのためには豊富な研究費が必要です。</p>
理工学部	<p>競争意識</p>
生物資源産業学部	<p>施設や設備が充実しており、教員と学生および学生同士の交流や意見交換が活発である大学。 そのためには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が授業に集中でき、教員が授業を円滑に行うことができる環境を整えること。</li> <li>・教員が一方的に知識を伝達するのではなく、学生からも意見を出すように働きかけること。</li> <li>・学生が積極的になること。</li> <li>・他学部、学科生が交流できる機会を作ること。</li> </ul> <p>が必要だと思う。</p>
総合科学教育部	<p>○理想の大学とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文系理系問わず学部の壁を越えた共同研究ができたり、学んでいることや理論が社会で実際にどのように利用されているのか、どのように捉えることができるのかわかる授業内容を受けられる大学。</li> </ul> <p>○徳島大学にとって必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部を越えた学問の共有やそういった場。</li> <li>・OB・OGとのつながり、社会で活躍している卒業生の情報。あの有名人は、徳島大学出身だったなどの情報を集約してもらえると、大学に誇りを持つきっかけになると思います。</li> </ul>
医科学教育部	<p>学生・教職員の個性が尊重され、安心して研究・教育に取り組める環境が理想です。入試や採用選考において多様性を重視することと、本来の勉学や業務に専念できるように形式的な事務手続き（いわゆる雑務）を最小限にすることが必要と考えます。</p>
栄養生命科学教育部	<p>興味・関心のある学問を自由に深く学べる場所が私の考える理想の大学です。専攻分野以外の学問でも希望すれば専門的に学べるような環境があれば良いのではないかと思います。</p>
保健科学教育部	<p>同志社大学や近畿大学の様な誰しもが憧れるキャンパス</p>
口腔科学教育部	<p>自分の学部や分野だけでなく、他分野との関わりがあること。現在行われているように、サークル活動や研究リトリートなど、他学部が共同で参加する機会が多いことは、共同研究がしやすい地盤の育成につながるのではないかと考える。</p>

先端技術科学教育部	<p>(理想の大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来働くための専門的知識をしっかりと得られる大学</li> <li>・意欲的に勉学に励める環境および講義編成</li> <li>・金銭面の心配をする必要のないキャンパスライフ (アルバイトが本分になってしまわない)</li> <li>・他コースの学生との交流により視野を広げられる大学</li> </ul> <p>(徳島大学に必要なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷房、暖房で過ごしやすい室温に保たれた環境</li> <li>・パソコンの支給や補助金制度</li> <li>・アルバイト先の紹介 (現在でも情報提供をしてくれていることは知っているが、もっと利用しやすくしてほしい)</li> <li>・奨学金制度の充実や情報提供</li> <li>・私の研究室では蔵本キャンパスの研究室と交流があり、月に1度合同ミーティングが行われているが、他研究室の成果報告会に参加できたり、教育部の垣根を越えた意見交換会を開き、研究に多方面からの意見や支援をもらうことができれば、さらなる発展が期待できるのではないかと考える。時には、研究のサンプル数を増やすことにも繋がり、より正確な研究結果が得られるのではないかと期待する。</li> </ul>
<p>4 その他</p> <p>①一般社団法人大学支援機構を知っていますか。また、どう思いますか。 参考URL <a href="http://universityhub.or.jp/about-us1.html">http://universityhub.or.jp/about-us1.html</a></p>	
総合科学部	<p>知っている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員削減を行っている一方で、業務量は一向に減っていないという現状から考えれば、優秀なシステムを導入することには賛成できる。しかし、人がリソースである教育において大学側と学生の関係がこれ以上に希薄とならないよう、最大限配慮してほしい。</li> </ul>
総合科学部	知らない。
医学部	知らなかった。
歯学部	業務の効率化を共有できれば経費削減につながり結構なことと感じます。
薬学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドファンディングについては知っていた。同学部の他研究室が実際に立ち上げていたのを見て、アカデミアの研究をより多くの方々に知ってもらえる大変興味深い取り組みだと思った。</li> </ul>
工学部	<p>大学支援機構とは聞いたことはあるがどういうことを行っている機構かは詳しくは知りません。大学における教育や研究分野の内容を世界の人々や大学や企業と共有し、所有物から共有物へ変えていく試みは非常に良いことだと思います。また研究面において共有できることを共有することにより運営費交付金の削減の厳しい状況を乗り越えられる良い方法だと思います。しかし各大学の所有物や成果の管理や線引きがとても大切だと思います。</p>
理工学部	知らない。大学教育のさらなる発展のための努力が見受けられた。
生物資源産業学部	<p>知らない。</p> <p>大学支援機構が全国の大学の情報・システムの橋渡しの役割を果たし、大学の発展につながり、良い影響が学生にも還元されるのであれば価値のある仕組みだと思う。</p>
総合科学教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度初めて利用させていただきました。クラウドファンディングを利用することは初めてでしたが、PRの仕方やサイトの運営の仕方などいろいろ教えていただけで非常に助かりました。</li> <li>・しかし、支援募集終了後のサイトの利用や資金処理に関して学生では困難な点があったため、支援募集から終わった後のことまでの具体的な流れの提示やサポートがあるといいのではないかと思います。</li> </ul>
医科学教育部	知っていました。よい取り組みが多だけに、周知が十分にはかかれていない(と思われる)のが残念です。
栄養生命科学教育部	<p>知っています。</p> <p>各大学が協力しあうことで共に発展していけるので、とても良い制度だと思います。</p>
保健科学教育部	知りません。
口腔科学教育部	知りません。
薬科学教育部	<p>大学支援機構の存在は参考サイトを見て初めて知りました。個々の大学が持っている研究設備やシステムを共有して経費を節約しながら大学運営や研究を推進できることのメリットは大きいと思います。ただ、研究の機密性がどのように保障されるのかが明確でないと利用しにくいのではないかと思います。</p>

先端技術科学教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前は聞いたことがあったが、実際の活動については、ほとんど知らなかった。</li> <li>・大学の財政危機を回避するために、情報を共有することで大学が稼ぐことに特化した支援機構であるということがわかり、普段、研究を行っていく上でも資金不足を感じることもあるため、とてもいい制度だと思った。</li> <li>・徳島大学でもクラウドファンディングによって資金を集めている研究があることは知っていたが、一般社団法人大学支援機構に委託していることまでは知らず、もっと敷居の高いものだと思っていた。</li> <li>・このような機構があり、大学が積極的に稼ぐことができるということを、学生にも周知してもらうことで、もっと活発に研究が行える大学になるのではないかと感じた。</li> </ul>
<p>②産業院について知っていますか。また、どう思いますか。          参考URL <a href="http://universityhub.or.jp/industrial.html">http://universityhub.or.jp/industrial.html</a></p>	
総合科学部	<p>知らなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学産業院において、一般教養を学ぶ前に、学生が「ものづくり」や「販売」「企業経営」のような実態に触れることが望ましいと思う。理由は、現実の課題と学問の結びつきが肌感覚として得られやすくなるから。</li> </ul>
総合科学部	知らない。
医学部	知らなかった。
歯学部	非効率な状況で稼ぐのも制約が出るので事業の効率化優先で良いと思います。
薬学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らなかった。徳島大学独自の今後の発展のためにも、さらに企業や一般の方々との連携による地域活性化のためにも、積極的に行ってほしい。</li> </ul>
工学部	<p>大学支援機構とは聞いたことはあるがどうしている機構かは詳しくは知りません。徳島大学大学院とその他連携大学や連携企業を繋ぐ橋渡しの存在で研究を行っていく上で必要不可欠な存在だと思います。調べたところ応用系教員が産業院の運営に関与しているのだからかなりの負担になり、研究が疎かにならないのか疑問に思います。</p>
理工学部	知らない。財政難を解消するために大学発のベンチャーを起こすのは斬新だと思う。
生物資源産業学部	<p>知らない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営費交付金の削減に対し、削減された額を大学自身が賄わなければならない状況にあることは理解できる。大学病院と同じシステムが産業院として他学部でも実際に成り立つことが可能であれば、実用的なシステムだと思う。デメリットなどはあるのか知りたい。</li> </ul>
総合科学教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耳にしたことがあります。</li> <li>・応えるニーズによっては、理工学部以外の人も関わっていける仕組みにすると産業院として活躍できる幅が広がるのではないと思う。</li> </ul>
医科学教育部	こちらは初めて耳にしました。取り組みの趣旨には賛同しますが、現状の教育・研究で日々忙殺されている教職員にこれ以上の負担を強いるべきではないと考えます。運営交付金の削減を食い止めさせることの方が重要ではないでしょうか。
栄養生命科学教育部	知りませんでした。
保健科学教育部	問題となっている財政的な危機を乗り越えるために必要なシステムであると思います。
保健科学教育部	知りません。
口腔科学教育部	知りません。
薬科学教育部	<p>産業院についても今回初めて知りました。研究費の調達はラボ単位の仕事である側面が強い大学では、収入を増加させるために大学のシステムが支援する方向になっていくことはいい傾向だと思います。参考サイトの文面から、産業院側がその大学でされている研究の将来性を判断して支援するシステムだと受け取りました。支援されるにあたって「イノベーションに繋がる技術」というものがどのように定義され判断されるのかが気になります。企業でされるべき研究と大学でされるべき研究は分けて考える必要がある以上、企業と同じやり方・価値観で利益が上げられるとは限りませんし、基礎研究と応用研究との間に格差ができてしまうのではないかと考えています。支援の仕方には議論の余地があると思います。</p>
先端技術科学教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど知らなかった。</li> <li>・日々の研究で大学の資金不足を感じているため、とても良い制度だと思った。</li> <li>・基礎研究系は個々の研究室として企業と共同開発を行えるような研究内容が少ないため、応用研究系の研究室が企業との共同開発等によって研究費を得ている部分を羨ましく感じることもある。基礎研究があつての応用研究であるため、産業院によって助け合うことができれば、更なる技術の発展に繋がるのではないかと考える。</li> <li>・産業院によって、大学が資金を調達できれば、遠方の学会参加等の資金援助についても充実させてほしい。</li> </ul>

③BYODについてどう思いますか？

※大学におけるBYOD(Bring Your Own Device)とは、インターネット社会で活躍できる人材を育成するため、学生個人が持ち込んだ情報端末を利用して教育等を行うことで、新生入生にノートパソコンを必携化するもの。

総合科学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報端末に触れる機会は多くなるだけでなく、大学側としてはコスト削減にもなるので良いが、インターネット社会で活躍できる人材が育成されるかどうかは、カリキュラム次第だと思う。現状、ノートパソコンの機能をフルに活用している学生はほほいらないのではないか。</li> <li>・大学が推奨するパソコン(ASUS)は個体差が激しく、学生の評判はよくない。</li> </ul>
総合科学部	<p>全講義がノートパソコンを使用するものでないと、忘れてくる学生が出てくると思う。 この授業では使わない、使うといったことでは、意味がないと思う。</p>
医学部	グローバル社会の先駆けとなるような教育だと思う。
歯学部	経済的負担を解決できれば、よい方針と思います。
工学部	<p>学生個人が持ち込んだノートパソコンなどの情報端末を利用して講義などの教育を受けられる良いシステムだと思うが教育に関係のないゲームなどに使用して教育に集中しない学生が多く出ると思います。目的がインターネット社会で活躍できる人材育成ならば今でもスマートフォンで十分インターネットを利用してきてかつほとんどの学生がスマートフォンを持っているので、新生入生にノートパソコンを必携化する必要がないと思います。</p>
理工学部	パソコンに日頃から慣れておくことは大切だと思う。
生物資源産 業学部	<p>社会に出てからパソコンを使用する場面は多いと思うので、大学生のうちからパソコンに触れておくことは必要だと思う。また、個人で所有するパソコンがあれば課題等をやる際に便利である。ただ、学生によってはノートパソコンの購入は負担になることも考えられる。また大学内のWi-Fi環境を整える必要があるため、BYODの仕組みを取り入れるのであれば大学が何らかの補助や環境整備をする必要は出てくると思う。</p>
総合科学教 育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初から新生入生全員にノートパソコンを必携化させるのは、経済的に困難な学生もいるかと思うので、趣旨を説明した上で可能な人は買ってもらい、困難な人には大学のパソコンを期限付きで貸し出すといった対応をする形で、試験的に試してみるのもいいかと思う。</li> <li>・携帯するPCのスペックによって、受けられる授業や遂行する研究に差が生じないかという点が心配である。</li> </ul>
医科学教育 部	取り組みに賛成です。スマートフォンの普及に伴い、「パソコンが使えない」学生が増えていると聞きますので、有用と思います。インターネットの利活用に重きを置くのであれば、タブレット端末を導入した方が時代の流れには即しているかもしれません。
栄養生命科 学教育部	各個人の端末で操作を行うため、例えば守秘義務を伴うような情報を扱う場合にはセキュリティー面でリスクを伴うのではないかという不安があります。
保健科学教 育部	これからの社会で働くためには必要だと思います。
口腔科学教 育部	非常によいと思います。
薬科学教育 部	最近ではパソコンが使えることは日常生活でも研究でも欠かせないスキルであり、どの大学でも自分のパソコンを持つように指導されていると思います。大学に入学するまでほとんどパソコンに触ったことがない人も多く、ある程度は強制的にパソコンを使う習慣をつけなければ後で苦労すると思うので、必携化は必要だと思います。
先端技術科 学教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、実際にそのような方針である講義が多く、とてもスムーズに学習ができていると感じる。</li> <li>・自分自身の情報端末を使うことで、いつでもどこでも気軽に学習ができるため、インターネット社会で活躍できる人材の育成が可能になるとともに、学力向上にも役立つ制度なのではないかと思う。</li> <li>・金銭的補助があれば尚良いと思う。</li> </ul>